

2026年3月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2025年8月7日
 上場取引所 東

上場会社名 昭和産業株式会社
 コード番号 2004 URL <https://www.showa-sangyo.co.jp/>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長執行役員 (氏名) 塚越 英行
 問合せ先責任者 (役職名) 財務経理部長 (氏名) 村田 吾大 TEL 03-3257-2036
 配当支払開始予定日 —
 決算補足説明資料作成の有無 : 有
 決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2026年3月期第1四半期の連結業績(2025年4月1日～2025年6月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2026年3月期第1四半期	84,647	△1.5	3,534	△14.2	4,393	△15.4	2,897	△45.6
2025年3月期第1四半期	85,929	△4.3	4,118	24.3	5,191	28.4	5,322	91.2

(注) 包括利益 2026年3月期第1四半期 3,260百万円(△51.6%) 2025年3月期第1四半期 6,735百万円(43.1%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2026年3月期第1四半期	89.23	—
2025年3月期第1四半期	161.68	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2026年3月期第1四半期	258,346	139,891	52.7
2025年3月期	255,504	138,619	52.8

(参考) 自己資本 2026年3月期第1四半期 136,238百万円 2025年3月期 134,978百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2025年3月期	—	40.00	—	60.00	100.00
2026年3月期	—	—	—	—	—
2026年3月期(予想)	—	50.00	—	50.00	100.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2026年3月期の連結業績予想(2025年4月1日～2026年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	円 銭
通期	340,000	1.7	11,000	△1.1	13,000	△4.4	9,500	△18.1
								292.56

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における連結範囲の重要な変更 : 無
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
 - ② ①以外の会計方針の変更 : 無
 - ③ 会計上の見積りの変更 : 無
 - ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数 (普通株式)

① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)	2026年3月期1Q	32,995,420株	2025年3月期	32,995,420株
② 期末自己株式数	2026年3月期1Q	523,238株	2025年3月期	523,094株
③ 期中平均株式数 (四半期累計)	2026年3月期1Q	32,472,280株	2025年3月期1Q	32,920,356株

※ 添付される四半期連結財務諸表に対する公認会計士又は監査法人によるレビュー : 無

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(1) 将来に関する記述等についてのご注意

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、記載された将来の計画数値、施策の実現を確約したり、保証するものではありません。業績予想に関する事項は、添付資料P.4「1. 経営成績等の概況 (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

(2) 決算補足説明資料は2025年8月7日 (木) に当社ホームページに掲載いたします。

○添付資料の目次

1. 経営成績等の概況	2
(1) 当四半期の経営成績の概況	2
(2) 当四半期の財政状態の概況	4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
(四半期連結損益計算書)	7
(四半期連結包括利益計算書)	8
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更)	9
(四半期連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記)	9
(セグメント情報等の注記)	10

1. 経営成績等の概況

(1) 当四半期の経営成績の概況

当第1四半期連結累計期間における我が国経済は、雇用・所得環境が緩やかに改善しているほか、インバウンド消費の拡大等により回復の兆しが見られました。しかしながら、物価上昇による消費者の節約志向の高まりや物流コスト・人件費の増加に加え、米国の関税政策などの動向による世界経済への影響や長期化する不安定な国際情勢などもあり、依然として先行きは不透明な状況が続いております。

このような状況の中、当社は創立90周年を迎える2025年度のありたい姿（長期ビジョン）「SHOWA Next Stage for 2025」の実現に向け、3rd Stage「中期経営計画23-25」を2023年4月にスタートし、基本コンセプト『SHOWAの“SHIN-KA”宣言～90年、そしてその先へ～』を掲げ、5つの基本戦略「①基盤事業の強化」「②事業領域の拡大」「③環境負荷の低減」「④プラットフォームの再構築」「⑤ステークホルダーエンゲージメントの強化」の各施策を推進しております。

当第1四半期連結累計期間の経営成績は、連結売上高は84,647百万円と前年同期に比べ1,282百万円(1.5%)の減収となりました。営業利益は3,534百万円と前年同期に比べ584百万円(14.2%)の減益、経常利益は4,393百万円と前年同期に比べ797百万円(15.4%)の減益、親会社株主に帰属する四半期純利益は2,897百万円と賃貸用不動産売却による固定資産売却益を計上した前年同期に比べ2,424百万円(45.6%)の減益となりました。

(単位：百万円)

	2025年3月期 第1四半期 連結累計期間	2026年3月期 第1四半期 連結累計期間	前年同期差	前年同期比 増減率
売上高	85,929	84,647	△1,282	△1.5%
営業利益	4,118	3,534	△584	△14.2%
経常利益	5,191	4,393	△797	△15.4%
親会社株主に帰属 する四半期純利益	5,322	2,897	△2,424	△45.6%

セグメントの経営成績を示すと、次のとおりであります。

<食品事業>

食品事業は、コストアップ要因となる物流コスト・人件費、資材価格等の上昇基調が続く中、製品価格の改定が進む一方で、消費者の節約志向が高まり販売環境は厳しい状況となりました。このような市場環境の中、当社の強みであるマーケット分析力を生かした、ターゲット業態ごとのソリューション型営業の強化、適正価格での販売に取り組みました。

製粉カテゴリは、輸入小麦の政府売渡価格が4月に平均4.6%（税込価格）引き下げられたことを受け、小麦粉製品の価格改定を実施しております。一方で、当社連結子会社を含めた生産拠点の一体運用を図ることで、物流コスト低減や生産効率化などを進めております。業務用小麦粉の販売数量は前年同期を上回りましたが、プレミックスの販売数量は前年同期を下回りました。パスタの販売数量は外食市場中心に好調であったため、前年同期を上回りました。ふすまの販売数量については、前年同期を下回りました。なお、家庭用の小麦粉およびプレミックスの販売数量は前年同期を下回りましたが、パスタの販売数量は米の代替需要も寄与し前年同期を上回りました。これらにより製粉カテゴリの売上高は、前年同期を下回りました。

製油カテゴリは、コストを踏まえた適正価格での販売活動と、長寿命オイルや油染みの少ないベーカリー用オイルなど機能的に価値のある商品提案や課題解決型営業に取り組んでまいりました。またコスト抑制と安定供給を目的に、当社連結子会社であるボーソー油脂株式会社、持分法適用関連会社である辻製油株式会社と連携して、生産拠点の効率的運用、原材料調達効率化などを進めております。業務用油脂については、需要の回復と課題解決型営業の奏功により、販売数量は前年同期を上回りました。家庭用油脂については、こめ油の販売が伸びましたが、汎用油とオリーブオイルの販売数量が前年同期を下回った為、販売数量は前年同期を下回りました。これらにより製油カテゴリの売上高は、適正価格での販売に努めましたが前年同期を下回りました。

糖質カテゴリは、当社連結子会社である敷島スターチ株式会社やサンエイ糖化株式会社との連携を図り、グループ一体となった課題解決や生産効率化などを進めております。糖化品の販売数量については、低分解水あめ、粉あめなど独自性のある商品群の販売が堅調に推移し、前年同期並みとなりました。コーンスターチ、加工でん粉の販売数量については、工業用途等の需要が減少し前年同期を下回りました。副製品については、販売価格は前年同期を上回りましたが、販売数量は前年同期を下回りました。これらにより糖質カテゴリの売上高は、前年同期を下回りました。

これらの結果、食品事業の売上高は69,413百万円と前年同期に比べ1,901百万円(2.7%)の減収、営業利益は3,374百万円と前年同期に比べ596百万円(15.0%)の減益となりました。

<飼料事業>

飼料事業は、顧客ニーズに対する提案型営業、畜産物の販売支援や付加価値向上へのサポート等の生産者との取り組み強化、高付加価値商材の拡販に努めております。配合飼料および鶏卵の販売数量は、昨年10月からの鳥インフルエンザ感染拡大による影響を受け前年同期を下回りました。配合飼料の平均販売価格はほぼ前期並みでしたが、鶏卵相場が堅調に推移したことにより、鶏卵の販売価格は前年同期を上回りました。

これらの結果、飼料事業の売上高は13,953百万円と前年同期に比べ508百万円(3.8%)の増収、営業利益は136百万円と前年同期に比べ23百万円(20.8%)の増益となりました。

<その他>

倉庫業につきましては、貨物獲得競争が激化する中、商社や主要顧客との取り組みを強化し荷役量の増加に努めておりますが、貨物取扱量は前年同期を下回りました。

これらの結果、不動産業、保険代理業、自動車等リース業、運輸業、植物工場等をあわせたその他の売上高は1,280百万円と前年同期に比べ110百万円(9.5%)の増収、営業利益は379百万円と前年同期に比べ6百万円(1.6%)の減益となりました。

・売上高の分解情報（報告セグメント及びカテゴリ別）

（単位：百万円）

売上高の分解情報			2025年3月期 第1四半期 連結累計期間	2026年3月期 第1四半期 連結累計期間	前年 同期差	前年同期比 増減率
報告 セグメン ト	食品事業	製粉カテゴリ	27,325	26,943	△382	△1.4%
		製油カテゴリ	25,024	23,473	△1,550	△6.2%
		糖質カテゴリ	17,343	17,228	△115	△0.7%
		その他食品カテゴリ（注） 1	1,621	1,768	147	9.1%
			71,315	69,413	△1,901	△2.7%
	飼料事業	13,444	13,953	508	3.8%	
報告セグメント 計		84,760	83,366	△1,393	△1.6%	
その他（注） 2			755	839	84	11.1%
顧客との契約から生じる収益			85,515	84,206	△1,309	△1.5%
その他の収益（注） 3			413	440	26	6.5%
外部顧客への売上高			85,929	84,647	△1,282	△1.5%

（注）1 「その他食品カテゴリ」は食品事業の内、製粉カテゴリ、製油カテゴリ、糖質カテゴリに属さない食品等の販売となります。

2 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、倉庫業、不動産業、植物工場、保険代理業、自動車等リース業、運輸業を含んでおります。

3 「その他の収益」は「その他」でのみ計上しております。

(2) 当四半期の財政状態の概況

(単位：百万円)

	2025年3月期	2026年3月期 第1四半期	前期末差
流動資産	112,749	114,222	1,472
固定資産	142,754	144,124	1,370
資産 計	255,504	258,346	2,842
流動負債	78,362	79,447	1,085
固定負債	38,521	39,007	485
負債 計	116,884	118,454	1,570
純資産 計	138,619	139,891	1,272

当第1四半期連結会計期間末における資産、負債及び純資産の状況及び分析は次のとおりであります。

総資産は、258,346百万円と前連結会計年度末と比較して2,842百万円増加しております。主な増加要因は、投資有価証券が2,125百万円増加したこと、棚卸資産が1,371百万円増加したことであります。

負債は、118,454百万円と前連結会計年度末と比較して1,570百万円増加しております。主な増加要因は、仕入債務が3,101百万円増加したこと、有利子負債（リース債務含む）が1,746百万円増加したことであります。一方、主な減少要因は、未払法人税等が1,701百万円減少したこと、賞与引当金が1,338百万円減少したことであります。

純資産は、139,891百万円と前連結会計年度末と比較して1,272百万円増加しております。主な増加要因は、親会社株主に帰属する四半期純利益2,897百万円の計上により増加したことであります。一方、主な減少要因は、配当金の支払による1,949百万円の減少であります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

第2四半期以降も不安定な国際情勢や為替相場の動向、物価上昇や物流コスト・人件費の増加など、当社グループを取り巻く経営環境は不透明な状況が続くものと予想されますが、2025年5月12日に公表した2026年3月期（2025年4月1日～2026年3月31日）の連結業績予想につきまして変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2025年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2025年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	8,106	7,723
受取手形及び売掛金	52,761	53,414
商品及び製品	15,511	16,248
仕掛品	2,475	2,918
原材料及び貯蔵品	28,777	28,968
その他	5,188	4,995
貸倒引当金	△70	△46
流動資産合計	112,749	114,222
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	31,241	30,887
機械装置及び運搬具（純額）	27,144	27,412
土地	21,331	21,253
その他（純額）	7,378	7,223
有形固定資産合計	87,096	86,777
無形固定資産		
のれん	831	795
顧客関連資産	1,480	1,415
その他	1,451	1,433
無形固定資産合計	3,763	3,644
投資その他の資産		
投資有価証券	47,221	49,346
退職給付に係る資産	1,654	1,675
その他	3,306	2,968
貸倒引当金	△287	△287
投資その他の資産合計	51,894	53,702
固定資産合計	142,754	144,124
資産合計	255,504	258,346

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2025年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2025年6月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	22,177	25,278
短期借入金	13,516	14,716
1年内償還予定の社債	7,000	7,000
コマーシャル・ペーパー	10,500	11,000
未払法人税等	2,486	785
賞与引当金	2,279	940
その他	20,402	19,726
流動負債合計	78,362	79,447
固定負債		
社債	11,000	11,000
長期借入金	7,966	7,961
役員退職慰労引当金	19	20
退職給付に係る負債	8,951	8,961
その他	10,584	11,062
固定負債合計	38,521	39,007
負債合計	116,884	118,454
純資産の部		
株主資本		
資本金	14,293	14,293
資本剰余金	5,256	5,265
利益剰余金	101,219	102,166
自己株式	△1,551	△1,552
株主資本合計	119,217	120,173
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	13,592	14,388
繰延ヘッジ損益	△17	△24
為替換算調整勘定	752	286
退職給付に係る調整累計額	1,433	1,415
その他の包括利益累計額合計	15,761	16,065
非支配株主持分	3,641	3,653
純資産合計	138,619	139,891
負債純資産合計	255,504	258,346

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第1四半期連結累計期間)

(単位: 百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年6月30日)
売上高	85,929	84,647
売上原価	70,381	69,306
売上総利益	15,548	15,341
販売費及び一般管理費	11,429	11,806
営業利益	4,118	3,534
営業外収益		
受取利息	0	18
受取配当金	349	448
為替差益	137	44
持分法による投資利益	507	292
その他	160	167
営業外収益合計	1,156	971
営業外費用		
支払利息	62	93
損害賠償金	2	2
その他	18	16
営業外費用合計	83	111
経常利益	5,191	4,393
特別利益		
固定資産売却益	2,621	0
特別利益合計	2,621	0
特別損失		
固定資産廃棄損	92	55
固定資産売却損	0	17
減損損失	—	19
出資金評価損	—	149
その他	1	—
特別損失合計	95	241
税金等調整前四半期純利益	7,717	4,152
法人税、住民税及び事業税	1,643	797
法人税等調整額	719	403
法人税等合計	2,363	1,201
四半期純利益	5,354	2,951
非支配株主に帰属する四半期純利益	32	53
親会社株主に帰属する四半期純利益	5,322	2,897

(四半期連結包括利益計算書)

(第1四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年6月30日)
四半期純利益	5,354	2,951
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	1,162	709
繰延ヘッジ損益	80	△6
為替換算調整勘定	—	△172
退職給付に係る調整額	△6	△18
持分法適用会社に対する持分相当額	144	△203
その他の包括利益合計	1,380	309
四半期包括利益	6,735	3,260
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	6,702	3,201
非支配株主に係る四半期包括利益	33	58

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更)

(連結子会社の事業年度等に関する事項の変更)

当第1四半期連結会計期間より、連結子会社昭産開発株式会社の決算日を2月28日から3月31日に変更しております。この決算期変更により変則期間となる当第1四半期連結累計期間の昭産開発株式会社の決算は2025年3月1日から2025年6月30日の4か月間となります。

なお、この変更が四半期連結財務諸表に与える影響は軽微であります。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記)

当第1四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第1四半期連結累計期間に係る減価償却費(のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。)及びのれんの償却額は、次のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年6月30日)
減価償却費	2,643百万円	2,452百万円
のれんの償却額	36百万円	36百万円

(セグメント情報等の注記)

【セグメント情報】

Ⅰ 前第1四半期連結累計期間(自 2024年4月1日 至 2024年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位: 百万円)

	報告セグメント			その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	食品事業	飼料事業	計				
売上高							
外部顧客への売上高	71,315	13,444	84,760	1,169	85,929	—	85,929
セグメント間の内部 売上高又は振替高	1,003	0	1,003	770	1,774	△1,774	—
計	72,318	13,445	85,764	1,939	87,703	△1,774	85,929
セグメント利益	3,971	112	4,083	385	4,469	△350	4,118

(注) 1 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、倉庫業、不動産業、植物工場、保険代理業、自動車等リース業、運輸業等を含んでおります。

2 セグメント利益の調整額△350百万円には、セグメント間取引消去0百万円、全社費用△350百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない企業集団の広告に要した費用、基礎的研究開発費であります。

3 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

Ⅱ 当第1四半期連結累計期間(自 2025年4月1日 至 2025年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位: 百万円)

	報告セグメント			その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	食品事業	飼料事業	計				
売上高							
外部顧客への売上高	69,413	13,953	83,366	1,280	84,647	—	84,647
セグメント間の内部 売上高又は振替高	727	1	728	776	1,505	△1,505	—
計	70,141	13,954	84,095	2,057	86,152	△1,505	84,647
セグメント利益	3,374	136	3,510	379	3,889	△355	3,534

(注) 1 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、倉庫業、不動産業、植物工場、保険代理業、自動車等リース業、運輸業等を含んでおります。

2 セグメント利益の調整額△355百万円には、セグメント間取引消去△0百万円、全社費用△354百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない企業集団の広告に要した費用、基礎的研究開発費であります。

3 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

重要性が乏しいため、記載を省略しております。